「共生の森」の植物　平成25年1月27日

ウバメガシ（ブナ科）

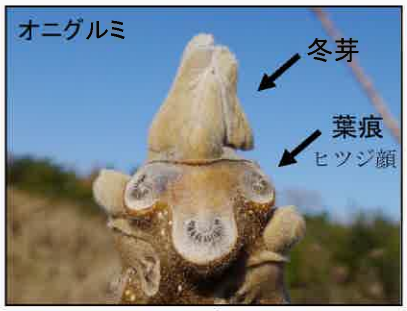
平成17年の植栽エリアにウバメガシの苗木がたくさん生えている。植樹した木が大きくなり、そのドングリから芽がでたもの。

ウバメガシは乾燥に耐え潮風にも強く、大阪府内では岬町などの海岸沿いや泉南地域の山の中で普通にみられる。海沿いの「共生の森」でも定着している植物のひとつ。

刈り込みに耐えることから生垣としてもよく利用され、住宅地を歩くとウバメガシの生垣を見かけないことはない。ウバメガシのドングリは成長するのに2年かかる。したがって毎年、手入れをされている街なかではなかなかウバメガシのドングリを見ることはない。

ウバメガシは和歌山県産備長炭の材料としても知られている。

冬芽と葉痕



冬芽（ふゆめ・とうが）
春に伸びて
葉や花になる芽

葉痕（ようこん）
秋に葉が
落ちたあと

シナサワグルミ

ハゼノキ

アオギリ

ヌルデ

アキニレ

ナンキンハゼ

イチジク

ニワウルシ

センダン

いろんな表情で春を待っている

見かけた植物・生き物

ツグミ ナンキンハゼをついばむ

マユ で越冬中のイラガ

メジロ

ウ メ

マサキ

ノイバラ

アキニレ

エノキ

センダン

シナサワグルミ

「共生の森」の植物　平成25年2月28日

ウ　メ（バラ科）

万葉集に多く詠まれウメはサクラとともに日本人に最も親しまれてきた花のひとつ。

日本には飛鳥時代か稲作伝播時に中国から渡来したといわれる。しかし、英名は Japanese apricot シーボルトらがつけた学名は Prunus mume 。

「共生の森」には、植えられたウメのほか残土に交じってきたと思われるウメの木が数本ある。

花の少ない早春に長く咲いているのでよく目立つ。メジロやヒヨドリが蜜を吸いにやってくる。

昆虫の少ないこの時期、花粉を鳥に運んでもらい受粉する鳥媒花といわれている。この日もメジロがやってきた。

魚を運ぶ　ミサゴ

「共生の森」一番のエノキに鳥の巣

見かけた植物・生き物

サンシュユ

コブシ

ナワシログミ

ヒメオドリコソウ

カラスノエンドウ

ナヨクサフジ

3月2・3日　植栽の状況

サークル間を広くとり植栽直径3m　15本ずつ植栽

これまで10回の植樹祭のうち、5回サークル植えを実施。
サークル植えの効果を検証する必要もある。

1125本の苗木を植栽　参加者702名

直径3mのサークルにそれぞれ15本ずつ苗木を植栽。サークルは全部で125箇所。サークル植えをするのは下刈の労力を少なくするのが目的。

植栽樹種（27種）

アキニレ・アラカシ・エゴノキ・エノキ・クヌギ・クロガネモチ・クロマツ・ケヤキ・コナラ・ネムノキ・ヤブニッケイ・ヤマザクラ・ヤマモモ・ムクノキ・オニグルミ・ウツギ・シャリンバイ・タニウツギ・トベラ・ナワシログミ・ネズミモチ・ハギ・マサキ・リョウブ・ヒイラギ・シモツケ

「共生の森」の植物　平成25年03月17日

ナワシログミ（グミ科）

春から花が咲き、秋に実が熟す植物が多い中、ナワシログミは10月ごろに花が咲き、今の時期に実が鈴なりになっている。苗代をつくる頃に実が熟すことからナワシログミ。

海岸での生育に耐えること、根に窒素を固定する能力があり痩せ地でも生育できることから「共生の森」で植えた植物の中で最も生存率が高く成長のよいもののひとつ。

種子は鳥に運ばれて増えるといわれているが、毎年植え続けていて成長がよく、これだけ実をならしているにもかかわらずナワシログミが「共生の森」で自然に数を増やしている様子はない。

ハツカネズミ

「共生の森」で食物連鎖の頂点にいる猛禽類を支えていると思われるネズミ。野外に積まれた資材を片付けているとその中から飛び出してきた。竹杭などを雑然と積んでおくだけでも生き物のすみかとなる。

アオジ

マヒワ

コミミズク

ムクドリ

オオカマキリ卵塊

ハラビロカマキリ卵塊

見かけた植物 ・生き物

アケビ

フラサバソウ

サンシュユ

ツルニチニチソウ

イスノキ

アンズ

けもの道

「共生の森」の植物　平成25年4月21日

カラシナ（セイヨウカラシナ）（アブラナ科）

句に読まれ、唱歌に歌われてきた日本の春の風物詩、「菜の花」はアブラナ又はセイヨウアブラナ。菜種油を採るために栽培されてきた。

今、「共生の森」や河川敷で咲き誇っている「菜の花」はアブラナのそっくりさんで、明治時代に日本に導入されたセイヨウカラシナ。

カラシナは漢字で書けば芥子菜。その名のとおり種子が「和からし」の原料となる。江戸時代以前から「和からし」の原料となっていたカラシナはこのセイヨウカラシナを原種とし、中国経由で伝わったとされる。

現在、日本の「和からし」の原料となるセイヨウカラシナの種子はそのほぼ100％をカナダから輸入している。アブラナと思っていた「菜の花」はいつの間にかカラシナに置きかわり、国産と思い込んでいた「和からし」の中身は外国産に入れ替わっていた。

見かけた植物・生き物

ナワシログミ

イスノキ

ウバメガシ

ナガミヒナゲシ

ルリムスカリ

アカメガシワ

ウグイス

カワウ

クビキリギス（越冬組）

モンキチョウ

ベニシジミ

ツバメシジミ

ナミテントウ

カラスノエンドウ

スズメノエンドウ

カスマグサ

ヤエムグラ

アケビ

コメツブツメクサ

オッタチカタバミ

ヘラオオバコ

イチジク

「共生の森」から見た、あべのハルカス

ひときわ高い。手前はシャープ堺工場

「共生の森」の植物　平成25年5月22日

ハマヒルガオ（ヒルガオ科）

海岸の砂浜に生え全国各地に分布する。葉は厚く水分の蒸発を防ぐと共に、海水の塩分にも耐える。種子は海流に乗って運ばれる。砂の移動が激しく他の植物が生存しにくいところに生活圏を広げていく戦略で世界中の砂浜に分布する。

「共生の森」では潮風が強い大阪湾側の空き地に生えている。砂の移動がなく他の植物が侵入しやすい「共生の森」ではハマヒルガオの原っぱはそのうち無くなるかもしれない。

見かけた植物・生き物

ヒルザキツキミソウ

コバンソウ

ヤマグワ

チガヤ

アカバナユウゲショウ

ｲﾇｺﾓﾁﾅﾃﾞｼｺ　と　ｷﾀﾋﾒﾋﾗﾀｱﾌﾞ

ショウジョウトンボ

シオカラトンボ

アオモンイトトンボ

コアオハナムグリ

ノイバラ

イボタノキ

ノビル

ハタケニラ

センダン

ニワゼキショウ

ミヤコグサ

シロバナマンテマ

ヤナギハナガサ

アメリカオニアザミ

ネズミムギ

ゴマダラチョウ

ｲﾁｼﾞｸの樹液を吸っていた。
「共生の森」に定着して4年目。
幼虫はエノキの葉を食べる。
成虫は4本足。

「共生の森」の植物　平成25年6月30日

ドクダミ（ドクダミ科）

「共生の森」を歩いているとドクダミが繁茂している場所があった。足を踏み入れると独特な臭いがする。時季を少し逸しているがまだ花が咲いていた。よく目立つ花の白い花びらのように見える部分は葉が変化したもの。よく見ると花びらのない小さな花がたくさん集まっている。

ドクダミはドクダミ茶を始めいろいろな薬効があり、別名「十薬」と呼ばれ民間薬として利用されてきた。大阪では6月ごろ山を歩くとどこでも花を見かける。

タイワンウチワヤンマ 「共生の森」初登場

キリギリス　発確認
（去年鳴いていた）

テングチョウ　初登場
「共生の森」21 種目の蝶

セマダラコガネ
「共生の森」で見かけない

セッカ
草原を飛び回っていた

見かけた植物・生き物

トウネズミモチ

ネムノキ

ハナハマセンブリ

ｱﾒﾘｶﾉｳｾﾞﾝｶｽﾞﾗ

ノラニンジン

マサキ

ヘクソカズラ

ウメ

ビロードモウズイカ

モウズイカ

シナサワグルミ

マルバハッカ

ナンキンハゼ

ザクロ

ヒメギス　オンブバッタ　マダラバッタ　カマキリ（幼）

ｼｮｳﾘｮｳﾊﾞｯﾀ（幼）　セスジツユムシ　トノサマバッタ　ツチイナゴ

シオカラトンボ　ｼｮｳｼﾞｮｳﾄﾝﾎﾞ　コフキトンボ　チョウトンボ

ｱｵﾓﾝｲﾄﾄﾝﾎﾞ　チャバネセセリ　モンキチョウ　アオスジアゲハ

ﾊﾞﾗﾉﾊﾀﾏﾊﾞﾁ　クヌギ　コガネグモ　オニグモ

「共生の森」の植物　平成25年7月28日

オニユリ（ユリ科）

古くから食用（ユリ根）とされてきたオニユリ。よく似たコオニユリとの違いはオニユリには葉の付け根にムカゴができること。

オニユリは種が出来ないのでこのムカゴで増えていく。ムカゴから3年程度で花がさくとのこと。

現在、「共生の森」にあるオニユリは1株。城山高校から運ばれてきた苗の鉢にまぎれてやってきた。ここ数年、毎年花をつけている。毎年ムカゴもできているが今のところ自然に増えている様子はない。

オニユリは主に人里近くで見られ、古い時代に中国からやって来たともいわれている。

見かけた植物・生き物

オオマツヨイグサ

ヤブカンゾウ

ハクチョウソウ

ヒルガオ

ウイキョウ　と　ｱｶｽｼﾞｶﾒﾑｼ

ヤブガラシ　と　ｼﾛﾃﾝﾊﾅﾑｸﾞﾘ

ヤナギハナガサ

ランタナ

クズ

ミシシッピアカミミガメ

J山の南側、「共生の森」の一番外側の溝にいた
他の場所にもいる可能性あり

クルマバッタ

ツユムシ

クマゼミ

オオカマキリ

マイコアカネ

ｼｮｳｼﾞｮｳﾄﾝﾎﾞ♀

ﾀｲﾜﾝｳﾁﾜﾔﾝﾏ

アカハネナガウンカ

ニワハンミョウ

キバネオオベッコウ（蜘専門）

アオドウガネ

ヌルデ
今年は「共生の森」のヌルデが蛾の幼虫にひどくやられている。
（トサカフトメイガ）

「共生の森」の植物　平成25年8月26日

クサギ（クマツヅラ科）

クサギは開けたところに生える先駆種のひとつ。大阪の山を歩くとどこでもよく見かける。

クマバチ

オオスカシバ（蛾）

7－3区では、他の先駆種のアカメガシワやヌルデなどは外来種などと競ってたくさん生えているが、自然に生えてきたクサギはそんなに多くない。

名前の由来は葉をちぎってもむと臭い匂いがすることから。花はよい香りがし、実は紫色でよく目立つ。

この日は雨模様であったが、花にはオオスカシバ、コアオハナムグリ、クマバチなどいろいろなお客さんがやってきてにぎわっていた。

見かけた植物・生き物

イチジク

ザクロ

アオギリ

クルミ

連日の猛暑のため、セイタカアワダチソウが枯れていた

ギンヤンマ　受難

まるまると太った！オニグモ」に捕まっていた

ツバメシジミ

ベニシジミ

イチモンジセセリ

ウスバキトンボ

フヨウ

オオマツヨイグサ

モモの実にやってきた、シロテンハナムグリ と ゴマダラチョウ

暑い日が続いているが、いつの間にか、キリギリスがいなくなりエンマコオロギが鳴いていた。秋も近い。

「共生の森」の植物　平成25年9月26日(10月6日)

ハギ【ヤマハギ】(マメ科)

「秋の野に咲きたる花を指（および）折り、かき数ふれば七種（ななくさ）の花」「萩の花、尾花葛花、なでしこの花、をみなえし、また藤袴、朝顔の花」山上憶良

万葉集で最も人気があり、秋の七草の筆頭として詠まれたハギ。漢字で書くと草冠に秋。ハギが草かどうかは別にして、押しも押されぬ秋の花の代表選手。

「共生の森」では自然に生えたハギはなく、植樹されものが咲いている。

万葉集ではシカと組み、花札ではイノシシとセットで名を馳せた萩。現在、「共生の森」での相方はタヌキ。

「共生の森」で、シカやイノシシとペアを組める日は、はたしてやってくるのでしょうか。

フタモンアシナガバチ

この日の最高気温は 32.7 度。10 月としては季節はずれの真夏日。フタモンアシナガバチがビッシリと身を寄せ合っていた。このような光景は真夏の暑い日にも見かけた。

トノサマバッタの産卵

オオカマキリ

イボバッタ

カンタン

クルマバッタモドキ

ヒメアカタテハ

ヤマトシジミ

ザクロ

コマオハナムグリ

ウスバキトンボ

アキアカネ

アオモンイトトンボ

ヒメカメノコテントウ

オカモノアラガイ

カタツムリ(不明)

見かけた植物・生き物

ヒガンバナ

キミガヨラン

キンエノコロ

アキノエノコロ

オヒゲシバ

タマスダレ

マルバアメリカアサガオ

マメアサガオ

ニラ

ヤナギハナガサ

シュッコンバーベナ

チョウゲンボウ

チョウゲンボウの羽が散乱していた。「共生の森」で食物連鎖の頂点に立つ猛禽類といえども、どこで命を落とすかわからない。

「共生の森」の植物　平成25年10月27日

オニグルミ（クルミ科）

オニグルミは山地の沢沿いに多く、大阪では豊能町の初谷川沿いでたくさん見られる。クルミをリスやネズミが運ぶことで知られるが、沢沿いに分布することからして川に運ばれる水散布でもある。

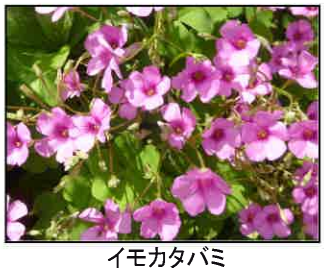
涼しい山の中にあるイメージがあるが、藤井寺の大和川の堤防にも生えている。金剛山系などから流されてやってきたと思われる。今年もたくさん実をつけていた。下流の「共生の森」でも育つかもしれません。

「共生の森」にあるものは、北摂で採取されたクルミのほかイベントで植栽されたもの。

オニグルミの実は食用とされ、材は軽くて狂いが少ないことから銃床として利用されてきた。

見かけた植物・生き物

アキノノゲシ


イモカタバミ

ヤブラン

ホシアサガオ

イヌビワ

シャリンバイ

アオギリ

オオシロカラカサタケ

カリン

「共生の森」のカリン　　今年は当たり年

ツマグロヒョウモン

ヒメアカタテハ

ヨモギハムシ

ハラビロカマキリ（卵塊）

コアオハナムグリ

アオヒメハナムグリ

「共生の森」の植物　平成25年11月24日

ビワ（バラ科）

花の少ない季節に咲くビワの花。多くの植物が春以降に花を咲かせて実をならすのに対し、ビワは今頃から2月ごろまで花を咲かせ、冬を越し、6 月ごろに実をならす変わり者。ライバルの少ない時季に花を咲かせて鳥や虫を集めるのがビワの作戦。この日も注文どおりに、ハナムグリがやってきた。

ビワの原産地は中国といわれる。現在、日本一のビワの産地は長崎県。「共生の森」には植えられたビワの木が数本ある。今のところ、鳥に運ばれ広がっている様子はない。

ゴワゴワとした特長のある葉は、古くから薬用として利用されてきた。

見かけた植物・生き物

クサギ（実）

ノイバラ

トキワサンザシ　（ピラカンサ）

タチバナモドキ

チャバネセセリ・ランタナ

ナワシログミ

セイタカヨシ

オギ

アカメガシワ

ハグロハバチ（幼虫）

アシブトハナアブ　オオハナアブ

ホウシジャク

ベッコウバエ

オンブバッタ

チョウセンカマキリ（卵塊）

ベニシジミ

ウバメガシ

カキ

ワシントンヤシ切り株

キミガヨラン

ナンキンハゼ

この日は暖かく、オスのフタモンアシナガバチがあちこちで集っていた。

「共生の森」の植物　平成25年12月15日

ひっつき虫

「共生の森」を歩くと、ひっつき虫が服や手袋、靴にまで遠慮なくくっつく。通りかかった動物にくっつき、遠くへ連れて行ってもらうのがひっつき虫の戦略。

オオオナモミは大きな種の周りに鉤のあるトゲを付けハリセンボンのような状態で。イノコズチは種の表面にフックを付けて。コセンダン草は花が咲き終わると、ひっつき虫のウニが現れる。

同じように動物にくっつく作戦だがそれぞれ芸風が違い個性が光る。作戦の違いは、植物がもともと狙っていた動物の違いによるものか。

「共生の森」で人間を一番カモにしているのは、コセンダングサ。少し歩くだけでもコセンダングサの思惑にはまらずに済むことはまずない。

アリの巣（種不明）

クスノキの枝先に葉で固めた塊が。塊を少し崩すと、中ではアリが越冬中。巣を壊されたのでタマゴを抱えてパニック状態に。

ベニシジミ

ツヤアオカメムシ

ナヨクサフジ

キミガヨラン

見かけた植物・生き物

ク　コ

ノウゼンカズラ

イボタノキ

ノイバラ

ハゼノキ

フヨウ

カリン

フウセンカズラ

ムクドリ

スイセン

紅葉が残るなか、気のはやいスイセンが咲き出した。